

**副作用を知ろう！**



**coropro**

**NPO法人 どんぐり未来塾**



## 薬に副作用はつきものです

「副作用が心配だから、薬はなるべく飲みたくない！」と、思う方も多いのではないのでしょうか？

薬は、いくつかの働きを持っています。病気を治したり、症状を和らげる働きを「主作用」といいます。それに対し、本来の目的以外の働きを「副作用」といいます。

期待する働きだけあらわれるのが理想ですが、『**副作用のない薬はない！**』と言っても過言ではありません。

このパンフレットは、いたずらに副作用を恐れるのではなく安心して薬を使っていただけるよう、副作用についてきちんと知って頂くことを目的として作成しました。

副作用の正しい知識を持ち、万が一、副作用が起きてしまった場合でも慌てずに対処できるようにしましょう！

# 副作用の起こる仕組みを 知ろう！



副作用の原因は、**大きく3つ**に分けられます。

## 副作用の3分類

- アレルギー（薬物過敏症）による副作用
- 薬 本来の作用（薬理作用）による副作用
- 薬が持つ毒性（薬物毒性）による副作用

副作用の予防対策を考えるとときに必要なのは、**副作用の起こる仕組みを知る**ことです。原因が分かれば対策を立てることができます。

また、この3つの分類の特徴をつかむことで、今まであまり気にしなかったような体調変化が、実は薬の副作用だった、と気づくことがあるかもしれません。

次ページから、それぞれの副作用について詳しく解説していきます。

# アレルギー（薬物過敏症）による副作用を知ろう！



アレルギー（薬物過敏症）による副作用は、**薬が体に合わないことで起こる副作用**です。

## アレルギーによる副作用の特徴

- どんな薬でも誰にでも起こる可能性がある
- 重い症状になることが多い
- 起こる確率は極めて低い
- 事前予測が困難だが、薬を飲み始めた直後から 半年くらいの間に起こることが多い

めったに起こる副作用ではありませんが、起こると重症化することが多いです。

完全に予防することはできませんが、**初期症状で気づき、薬を中止することで、重症化を防ぐことができます。**

いつもと違う体調の変化が起こったら、少し様子を見ようとは思わず、薬を中止してすぐに受診してください。

## アレルギーによる副作用の初期症状で多い症状

じんましんや湿疹などの皮膚症状、発熱、呼吸困難など

# 薬 本来の作用（薬理作用） による副作用を知ろう！



薬 本来の作用（薬理作用）による副作用は、**薬が効いていることで起こる副作用**です。

## 薬理作用による副作用の特徴

- 薬を飲んでいれば常に起こる可能性がある
- 起こる確率が高い
- 事前にどんな症状が現れるか予測できる
- 軽い症状が多く、体が薬に慣れることで症状が 消えることも多い

血圧の薬によるめまいやふらつき、風邪薬による眠気が薬理作用による副作用に当たります。

風邪薬や花粉症などのアレルギーの薬で眠気が起きるのは眠くなる作用があるからです。

薬理作用による副作用は、常に起こる可能性があります、**事前にどのような症状が現れるか予測できます。**

また、薬を飲んでいるうちに、だんだん体が薬に慣れてくることで症状が消えることが多いため、よほどひどい症状でなければ、薬をそのまま続けるケースが多いです。

# 薬が持つ毒性（薬物毒性）による副作用を知ろう！



薬が持つ毒性（薬物毒性）による副作用は、薬を続けて飲むことで少しずつ体がダメージを受け“薬”が“毒”になってしまうことで起こる副作用です。

## 薬物毒性による副作用の特徴

- 長期間または大量に服用することで体に負担が かかり起こる可能性がある
- 急にひどくなることはなく、徐々に進行するため体調変化で気づけないことが多い
- 定期的に血液検査をすることでチェックできる

体の様々なところに現れますが、特に肝臓や腎臓で起こりやすい副作用です。

体の中で役目の終わった薬は肝臓で代謝されたり、そのまま尿中に排泄されます。このため、薬を服用すると肝臓や腎臓などに負担がかかります。薬を服用する期間が長ければ長いほど、また、薬を飲む量が多ければ多いほど、より負担がかかります。

ゆっくりと進行する臓器障害の場合、体調の変化として感じとることはほとんどありません。

**血液検査の結果による検査値の推移からチェックすることができます。**

# まとめ



表) 副作用の3分類まとめ

分類	特徴	対策	例
アレルギー (薬物過敏症)	めったに起きないが、起こると重症	<u>初期症状が出たら、すぐ受診する</u>	ショック、急性肝障害、急性腎障害、じんましん・湿疹など
薬 本来の作用 (薬理作用)	誰にでも起こりうるが、慣れると消えることも多い	<u>生活や体調に気をつけながら、様子を見る</u> <u>個々の副作用の対処法を知っておく</u>	かぜぐすりによる眠気、抗生物質による下痢、鎮痛薬で胃を壊すなど
薬が持つ毒性 (薬物毒性)	長期間または大量使用で起こりうる	<u>定期的に血液検査を受ける</u>	胃腸障害、肝障害、腎障害など

副作用のない薬はありません。何か気になることがあれば、いつでも薬剤師に相談して下さい。

## 副作用から体を守るために・・・

- アレルギーを起こしたことがある薬を覚えておく⇒お薬手帳に記録しておく  
⇒かかりつけ薬局へ伝えておく
- 定期検査（健康診断）の結果をかかりつけ薬剤師に見せる
- 自分の使っている薬でどんな副作用が起こるか？事前に把握しておく

安全に安心して薬を使うことができるよう、かかりつけ薬局・薬剤師を持ち、活用して下さい。